

地域再生と森林保全に根ざした里山アートプロジェクトの効果 - 3,000人のボランティア参加を得た上勝アートプロジェクトの事例より - *

The Effect of the “SATOYAMA ART PROJECT” for Local Reproduction & Conservation of Forests
- A Study of the “KAMIKATSU ART PROJECT” that got 3,000 volunteer participation -

花岡史恵**・澤田俊明***・横田正和****・北川フラム*****・山中英生*****
By Fumie HANAOKA**・Toshiaki SAWADA***・Masakazu YOKOTA****・Fram KITAGAWA*****・Hideo YAMANAKA*****

1. はじめに

(1) 背景

近年、我が国の中山間地域における少子高齢化・後継者不足・地域経済の衰退などの悪循環による過疎化の進展は、各地で地域コミュニティの崩壊に大きな影響を及ぼしている。本研究の当該地である徳島県上勝町は、昭和45年時点で4,500人の人口が、現在では2,000人にまで大幅に減少し、高齢化率が49%に達した。数年後には、小中学生の1学年人口が10名を下回ることが予測されている。上勝町では持続可能な地域づくりや町民の所得増大を目指した行政施策として、里山の葉っぱを活用した「彩(いろどり)産業」、国の構造改革特区を活用した「上勝町まるごとエコツアー特区」による農家民泊等の推進などの地域資源を活かした地域再生施策を推進している。また、平成17年度より、交流に着目した市民・行政・専門家等の連携ネットワークを構築し、それを基に、自立的・持続的地域づくりに根ざした新たな視点での取り組みとして、平成19年度の国民文化祭を有効活用した「上勝アートプロジェクト」(以下、上勝アートP)と略記)が実施された。

この「上勝アートP」は、新潟県妻有地域で平成12年度より3年周期で大祭が実施されている「越後妻有アートトリエンナーレ大地の芸術祭」¹⁾を先進事例として調査研究²⁾し、その活動が単なる芸術活動だけではなく、我が国の中山間地域の抱える諸問題に対応し、里山と芸術活動を繋ぐ新たな視点の「地域再生」に根ざした取り組みであるという点に着目し、平成19年度の国

*キーワード：地域再生、森林保全、里山アートプロジェクト、参加・協働・連携

** 正員、(株)エフ設計コンサルタント

(徳島県徳島市八万町下福万180-15 TEL088-668-3300)

*** 正員、博(工)、(有)環境とまちづくり

(徳島県上勝町福原川北30 TEL0885-44-6290)

**** 上勝町産業課

(徳島県上勝町福原下横峯3-1 TEL0885-46-0111)

***** (株)アートフロントギャラリー

(東京都渋谷区猿樂町29-18 TEL03-3476-4868)

***** 正員、工博、徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部

(徳島県徳島市南常三島2-1 TEL088-656-9877)

民文化祭をきっかけとして活動を開始した。

「上勝アートP」は、主として、地域資源である森林の間伐材有効利用と、地域住民の持つ里山生活の知恵を活用し、地域住民・都市部からの支援市民・行政・専門家等の参加・協働・連携により実施された。

(2) 目的

本研究では、「上勝アートP」の取り組みにおける効果を整理し、現時点で、この取り組みが上勝町に与えた影響と、今後の上勝町の地域再生や森林保全に根ざした「上勝アートP」の新たな展開に向けて、基礎考察を行うことを目的とする。

2. 上勝アートPの概要

(1) プロジェクトの背景

「上勝アートP」は、上勝町が抱える過疎化の課題解決に向けた「地域再生」の一手法として展開するもので、筆者等が所属する「上勝環境デザイン研究会」(以下、「研究会」と略記)が、平成17年度に企画立案したプロジェクトである。

平成17年度～平成18年度の2年間で、行政・専門家等が連携した事業を展開し、住民参加WSの実施や参加型景観資源調査³⁾などを通して、地域の人材発掘を行い、地域のキーパーソンを中心として、参加・協働による新たな地域資源の発見やアート展示にふさわしい場所選びを行い、場所や地域性に合致する作家の作風等についても専門家等を交えた企画委員会組織により検討・調整し、アート作品づくりの基盤整備を行った。

(2) プロジェクトの構成

本プロジェクトは、参加交流型のアート活動、参加交流型かみかつ体験活動、情報発信ネットワークづくり、の大きく3つの取り組みから構成されている。

3つのプロジェクト構成の概要を表-1に示す。

表-1 プロジェクトの構成

名称	取り組み概要
参加交流型アート活動	上勝町内全域を活動フィールドとし、芸術作家・地域住民・都市住民・各種専門家・行政等の「協働」による作品づくり
参加交流型かみかつ体験活動	地域住民による各種活動（例：竹細工・農作業体験・お祭り・晩茶づくりなどの体験活動等）のプログラム開発により、都市農村交流や地域活性化に根ざした活動として展開する
情報発信ネットワークづくり	上記の活動等を全国・世界に向けてPR広報するための情報発信ネットワークを構築する

(3) プロジェクトの経過

本プロジェクトは、平成 19 年度の国民文化祭を「きっかけ」として、「継続的な地域活動」として定着させるために、平成 15 年度から各種調査を行い、平成 17 年度からは各種事業を活用しながら実施した。「上勝アートPJ」の経過の模式図を図-1 に示す。

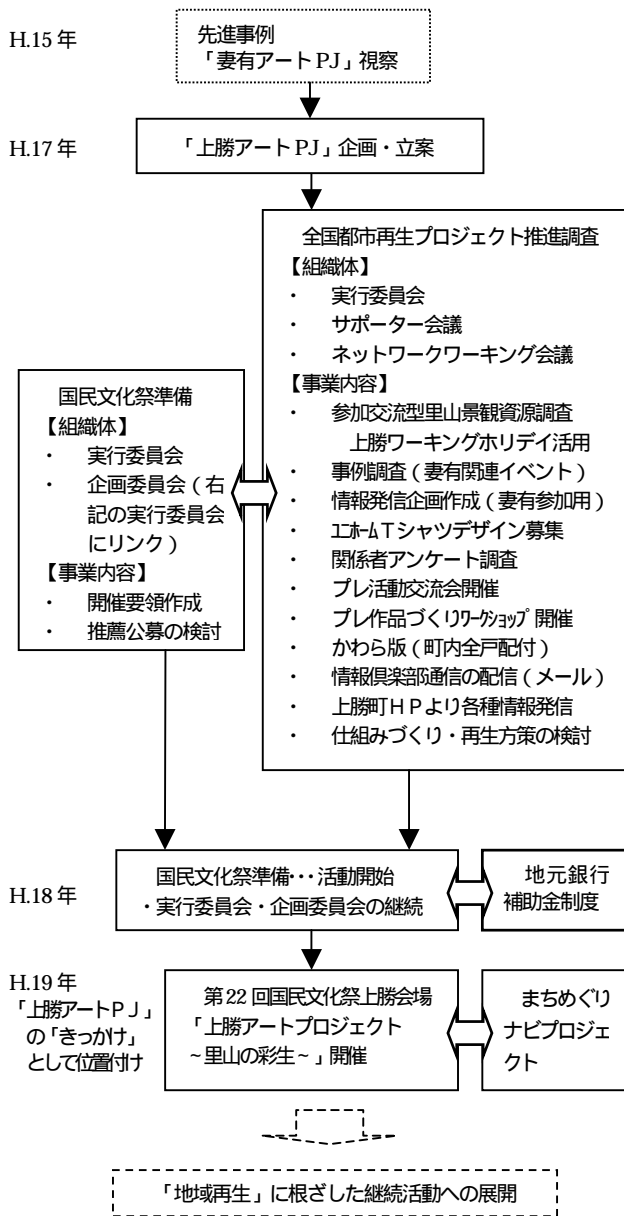


図-1 「上勝アートPJ」の経過

(4) プロジェクトに活用した事業

本プロジェクトの遂行にあたり、平成17年度から各種補助事業を活用しながら実施を行った。

平成 17 年度では、研究会が文化庁より受託した「都市再生プロジェクト推進調査」において、「参加型芸術活動による過疎地の持続的地域づくり展開」「芸術活動を介した市民・行政・専門家の多重連携による新たな交流創出」をテーマとして、過疎化が進展する上勝町において、市民・行政・専門家の多重連携のもと、自立的・持続的地域づくりを目指した「多重連携交流芸術活動」の基盤づくりを行う基礎調査を実施した。

また、上勝町では、新たな都市農村交流や地域活性化および地域環境整備のための社会実験プログラムとして、上勝町独自の手法による「上勝ワーキングホリデイ」が実施されている。平成 18 年度は、上勝町におけるこれら独自の手法を複合的に活用し、平成 19 年度の第 22 回国民文化祭に向けての本格的な準備を行った。

国民文化祭実施の平成 19 年度においては、国土交通省の「まちめぐりナビプロジェクト」事業の採択により、地域住民の案内ガイド研修、案内パンフレットの作成、インターネット上における WEB-GIS 機能の導入や携帯電話のQRコードの設定などを実施し、国民文化祭会期中の来訪者サービスと地域住民による案内ガイドの育成、役場HPのWEB-GIS環境整備などを実施した。

平成 17 年度～平成 19 年度の3年間をかけた一連の事業実施は、国民文化祭会期中9日間の上勝町への来訪者数延べ13,200人という数値成果にも現れ、会期中における地域住民の案内ガイドの充実や、地域住民の自発的な体験活動の実施や物産販売等でも一定の成果を得られたと判断される。

さらに、来訪者アンケートにおいては、作品の出来映え・地域の景観・地域住民の対応などに対する来訪者の満足度の高さが伺える結果が得られた。

各種事業の概要と総事業費を以下に示す。

表-2 事業の概要 印は筆者らによる企画書採択事業

年度	事業名	概算金額	補助機関
H.17年度	第22回国民文化祭	200,000	徳島県
	都市再生プロジェクト推進調査	240,000	上勝町
H.18年度	第22回国民文化祭	6,000,000	文化庁
	第22回国民文化祭	960,000	徳島県
	第22回国民文化祭	2,900,000	上勝町
H.18年度	かみかつワーキングホリデイ	-	上勝町
	阿波銀行学術・文化振興財団助成文化部門 文化活動助成	500,000	(財)阿波銀行学術・文化振興財団
H.19年度	第22回国民文化祭	11,820,000	徳島県
	第22回国民文化祭	17,880,000	上勝町
	まちめぐりナビプロジェクト	7,000,000	国土交通省
計		47,500,000	-

(5) プロジェクトにおける5つの作品

本プロジェクトでは、国民文化祭において、作家と地域住民・都市住民・行政・専門家等との協働により、上勝町の5つの大字に1ヶ所ずつアート作品を設置した。

表-3より、アート作品づくりには3,000人を越えるボランティアの参加を得たことがわかる。

表-3 作品の概要

地区	概要	
正木地区	名称	淵神の塔
	規模	高さ：約13m
	主材料	間伐材2m×2000本・煉瓦15000個
	制作日数	約1ヶ月
	人工数	延べ約420人
傍示地区	名称	射手座造船所
	規模	全長：約20m 高さ：約8m
	主材料	間伐材4m×850本(製材利用)
	制作日数	約6ヶ月：周辺整備を含む
	人工数	延べ約1,070人
福原地区	名称	時の橋
	規模	延長：約17m
	主材料	間伐材4m×60本 竹6m×80本
	制作日数	約4ヶ月：周辺整備を含む
	人工数	延べ約320人
生実地区	名称	トボス彩り2007
	規模	手作り素焼きポット777個
	主材料	粘土・花の苗
	制作日数	約6ヶ月：周辺整備を含む
	人工数	延べ約560人
旭地区	名称	もくもくもく
	規模	延長：約27m 幅：約4m
	主材料	間伐材4m×800本
	制作日数	約5ヶ月：周辺整備を含む
	人工数	延べ約640人



写真3 もくもくもく：4m×800本の間伐材使用

3. 取り組みの特徴と効果

(1) 地域再生に資する取り組みの特徴

上勝アートPJにおける地域再生に資する取り組みの特徴を以下に示す。

表-4 地域再生に資する取り組みの特徴

取り組み	特徴
作品の点在	作品を町内1ヶ所に展示するのではなく、地域に点在した作品を訪問者に鑑賞させることで、作品と里山の一体化を体感させている 地域資源の有効活用・里山の価値発見
作品展示による周辺環境整備	作品展示に伴う地域住民による周辺環境整備(周辺整地・植栽・歩道整備など)を行っている 地域住民の生活の知恵活用・自発的活動による維持管理への期待
作品展示場所の募集	作品展示にあたり、展示場所の募集を行った 民地活用・民地活用による地域の関心度向上
協働による作品づくり	作家、地域住民、都市住民、行政、各種専門家等の協働による作品づくりを展開している 都市農村交流・人の交流による地域活性化・自我関与による地域愛着心の醸成
活動連携	芸術作品以外に、地域の活動と連携した取り組み(地域の祭り・自然体験活動・産直市の開催など)を行っている 地域活動の掘り起こし・伝統技術の継承・地域経済向上への効果

(2) 森林保全に資する取り組みの特徴

上勝アートPJでは、地域資源である森林の間伐を実施し、その有効活用に努めた。その結果、今回の上勝アートPJで用いた間伐材は、上勝町内の人工林面積の約0.07%にあたる5.69haの人工林における約30%の間伐により調達された。一般に、対象となる森林が5~10年間の良好な森林環境を保つために必要な間伐の数値目標が25~40%と言われており、今回の間伐対象の森林においては、その数値が満足される結果となった。

また、今後の活動継続により、良好な間伐が行われた森林面積が確保されることになり、それが、森林全体のバイオマス成長を促進し、二酸化炭素固定にも有効⁴⁾であるとともに、保水能力の向上や生物



写真1 射手座造船所：4m×850本の間伐材の製材使用



写真2 トボス彩り2007：777個の手作りポット

の多様性、および森林景観の向上にも繋がる。
 今回の取り組みの特徴を以下に示す。

表-5 森林保全に資する取り組みの特徴

取り組み	特徴
間伐	5作品中、4作品が地域の間伐材を使用している (4作品で、4m×約2,700本) 間伐実績：杉5.69ha(人工林7,715haの約0.07%) 上記の間伐材確保にあたり、間伐対象の森林面積の約30%が間伐された 30%間伐は、一般に5年~10年の間、森林にとって良好な環境を保つと言われる数値である 【良好な森林環境の確保】 森林の保水能力向上 森林景観の向上 バイオマス成長の促進 間伐材の有効活用 間伐材の有効活用による二酸化炭素の吸収固定を促進
下草刈り	間伐に伴い、下草刈りも実施されている また、作品展示場所への歩道整備としても森林周辺の下草刈りが実施されている 森林の保水能力向上・森林景観の向上 歩くみちの整備

(3) 取り組みに期待できる効果

上勝アートPの取り組みに期待できる効果について、取り組みの特徴を基に、基礎的考察を行った。まとめを表-6、図-2に示す。

表-6 上勝アートPに期待できる効果

取り組み	効果
作品の点在	<ul style="list-style-type: none"> 里山における作品づくりを実際に見て、参加・体験することで、地域資源の新たな価値を発見する 地域資源の新たな価値の発見が「自分の地域の誇り」に繋がる 点在した作品を鑑賞することで、里山体感の範囲が拡大する 里山体感の範囲が拡大することで、里山の新たな価値を学ぶ
作品展示による周辺環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 作品に啓発されて、周辺環境への配慮が生まれることにより地域環境や景観への意識向上に繋がる 地域住民の里山生活の知恵が活かされることで、生きがいづくりにも寄与する 地域住民の自発的な関わりにより、作品周辺の維持管理へも期待できる
協働による作品づくり	<ul style="list-style-type: none"> 作品づくりに直接関与することで、作品に対する愛着心が醸成される 愛着心の醸成により、作品への維持管理に対する関心が高まる 協働・連携することへの理解が深まり、役所任せの公共ではなく、市民が参画する「新しい公共」という意識が生まれる 協働による作品づくりが行われていることを知ること、自らの参加意欲の促進に繋がる
活動連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動や祭り等の掘り起こしを行うことで、地域資源の価値の再認識に繋がる 地域住民や作家、協働者が共に活動等を行うことにより、都市農村交流、地域活性化に寄与する 都市農村交流、地域活性化が図れると、活動や祭り等の伝統の継承にも期待できる 地域の活動等を体験することにより、里山の新たな価値の発見に繋がる 体験により、新たな参加・参画についての意識が高まる
間伐・下草刈り	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源である森林の間伐・下草刈りを行うことで森林の保水能力が高まる 間伐材の有効活用により、二酸化炭素の吸収固定を促進する 作業に直接住民が関わることで、住民の森林への理解が高まり、森林管理の重要性が認知される

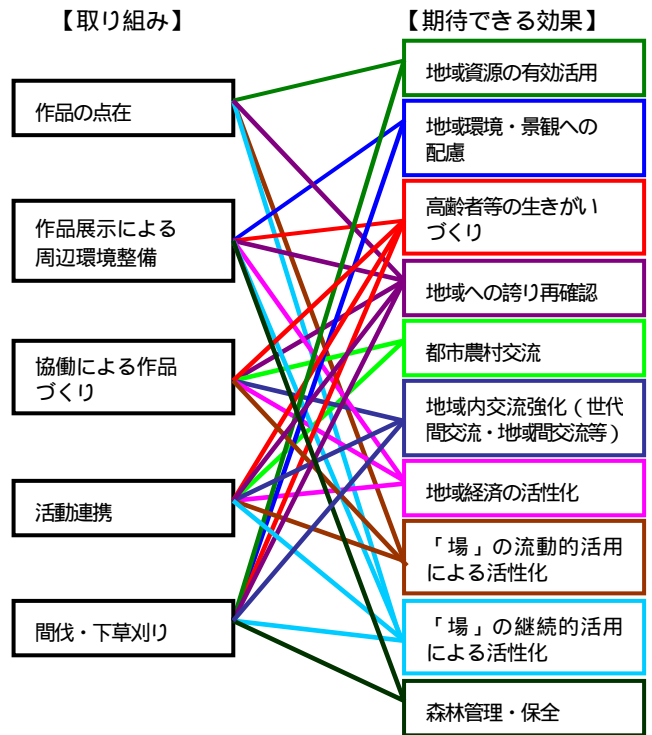


図-2 取り組みにより期待できる効果

4. おわりに

本研究では、上勝アートPの取り組みの特徴を整理し、期待できる効果の基礎的考察を行った。今回の取り組みは、上勝町地域住民の団結力の基に協働体制が確立された活動として展開されており、総事業費の規模を遙かに超える成果が得られている。

特に、人口2,000人の上勝町において、アート作品づくりで3,000人を越えるボランティア参加による劇的な社会的資本の構築には、計り知れない効果があると言える。

今後は、地域の公共施設や民間レベルでの空き家・空き地等の有効活用についても更なる検討を行い、中山間地域における地域資源である里山を有効活用したアートPによる地域再生や森林保全への可能性を探求し、上勝アートPが、地域再生や森林保全の一モデル的手法として確立されるよう、引き続き研究を継続し、考察を行う予定としている。

参考文献

- 1) 越後妻有大地の芸術祭実行委員会：大地の芸術祭 - アートトリエンナーレ2000・2003・2006,現代企画室,2001・2004・2007
- 2) 花岡史恵ほか：地域再生に根ざした里山アートプロジェクトの効果 - 上勝アートプロジェクトの展開に向けて -, 第32回土木計画学研究(秋大会)講演集, Vol.34, 2006年11月
- 3) 上勝環境デザイン研究会：平成17年度都市再生プロジェクト推進調査「上勝町での持続的地域づくりを目指した『多重連携交流芸術活動』の基盤づくり」報告書,文化庁,平成18年3月
- 4) 森林総合研究所：平成16年度研究成果選集「間伐は人工林のバイオマス成長を促すのか?」,森林総合研究所HP, <http://ss.ffpri.affrc.go.jp/index-j.html>